

HEPTATHELA

VOL.1, NO.3

1980

九州クモの会
Spider Study Group of Kyushu

目 次

- ◇ 佐賀県湯ノ原および金刀比羅神社産クモ類採集目録……………松本誠治……………(1)
- Check List of Spiders collected from Yunoharu and Kompira,
Saga-ken, with Measurements of the Carapace-width and the
Body-length of Specimens……………Seiji MATSUMOTO
- ◇ 「佐藤真一・クモ ノート」について ～大分県のクモ目録資料 No.1～
……………菊屋奈良義……………(12)
- On the study of Spiders by Shinichi SATO
—No.1 List of Spiders in Oita Prefecture—
……………Narayoshi KIKUYA
- ◇ 九州の洞窟産真正蜘蛛類 (Ⅲ) ……………入江照雄……………(19)
- Cave Spiders of Kyushu (Ⅲ) ……………Teruo IRIE

佐賀県湯ノ原および金刀比羅神社産クモ類採集目録

——(付) 採集標本の背甲幅と体長——

松 本 誠 治 (杏林大学医学部生物学教室)

1976年7月22日から7月25日まで、佐賀県佐賀郡富士町湯ノ原および佐賀市金立町大門(金刀比羅神社)を訪れ、クモの採集を行なった。その結果の一部は紀行(松本, 1977a)と、ハエトリグモの採集結果(松本, 1977b)として発表した。本報ではハエトリグモ科以外の標本の同定結果をまとめて報告したい。

前2報にも記したように、当地はBösenbergとStrand(1906)の大著「Japanische Spinnen」中の大部分の材料となったW. Dönitzの採集品の採集地の一部である。その意味において、当地は重要と考えられ、短期間の採集のために不十分な結果でしかないが、発表しておくべきと考え、まとめた次第である。

また、冗長になることを覚悟で、採集したクモの背甲の最大幅と体長を記録した。このことによって単なる採集目録以外の価値が生じることを期待したい。それは、採集期日におけるクモの発育程度が把握されることや、各発育段階における生長度の測定資料となることなどである。前者においては、他の採集地における同期日の採集標本との比較資料としての興味もある。後者においては、標本の令期が不明なものはその価値はあまりないと考えるが、資料が十分に集積すれば、新しい検討も可能となるかもしれない。本報中の測定値は、卵のうから出たばかりの個体と成体の1令前のいわゆる亜成体の測定値は、そのまま利用できるであろう。

なお、アシナガグモ科アシナガグモ属各種については、大熊千代子氏に標本を送り、同定結果を確認していただいた。同定の手数をおかけした同氏に心からお礼を申し上げる。

測定方法

生きているクモの大きさを、我々はそれが歩脚を広げた状態の大きさとして、あるいは体の大きさとして、感覚的にとらえていると考える。それ故に、標本としたクモの場合にも、そのような部分の大きさを測定しておくことは大切であろう。しかし、歩脚を広げた状態は、その基準・統一が困難であり、一般的でないので、本報では体長を記録する。けれども、この体長の場合も、腹部の状態(空腹時や卵を持っている時など)で大きく変化するので、その値は確かなものではないと考えられる(しかし、前述のごとく、普通クモの大きさといえば体長が用いられるので、この測定値はその意味で必要であろう)。クモの大きさをより正確に記録できる部分として、背甲の最大幅を

測定した。この背甲の最大幅の測定は、ほとんどの種類のクモに利用できるもので、背甲の長さよりも便利な測定場所といえる。また生きているクモでも測定可能であること（浜村，1971，1977）も、よりよい部分であると思われる。

背甲の最大幅と体長の測定は、ピノキュラー下で接眼マイクロメーターを用いて行ない、ミリメートル（mm）に換算した。読み取りの時の目盛数が50以上になるように倍率を調節した。最低倍率でもマイクロメーターの目盛を越えるクモ（体長16mm以上の個体）については、普通の定規で測定した。そのために、測定値の有効桁数は2桁で、普通の定規を用いて測定したクモの背甲の最大幅は1桁である。目録中の測定値は、素資料としても使えるように有効桁数よりも1桁多い値で記録した。

記録の方式は、採集地・採集日の符号、雌雄の区別や発育段階の略号の次に背甲の幅を、その後体長をハイフンでつないで記した。単位は全てmmである。

目録の形式

種名の重複による目録の冗長化をさけるため、各採集地の標本をまとめて記録した。そのためにデータ部分が煩雑になったかもしれない。科の配列は八木沼（1977）に従った。同一科内では、種名のアルファベット順とした。データ部分の順序は、採集地・採集日の符号、雌雄成体等の別、背甲幅-体長である（手元になく測定できなかった標本については測定値を省略してある）。

以下、採集地・採集日を、そのLocality Code（松本，1979）と共に列記しておく。

イ，1976年7月22日，佐賀県佐賀郡富士町湯ノ原（熊ノ川荘），Locality Code〔C3014-3321〕

ロ，1976年7月23日，同（熊ノ川荘），L.C.〔C3014-3321〕

ハ，1976年7月23日，佐賀郡大和町久池井（惣座↔大門），L.C.〔C3016-3319〕 および〔C3017-3319〕

ニ，1976年7月23日，佐賀市金立町大門（金刀比羅神社境内），L.C.〔C3018-3319〕

ホ，1976年7月24日，佐賀郡富士町谷田，L.C.〔C3014-3321〕

ヘ，1976年7月24日，佐賀郡富士町湯ノ原（天満宮境内），L.C.〔C3014-3321〕

Locality Codeは、採集地の経緯の分の単位までをハイフンでつなぎ（経度の100位の数字は省く）、合わせて8桁の数字として、その前に地球上の地域（8地域のうちの1つ）を区別するアルファベットを加えたものである。それ故に1つのLocality Codeは経緯1分ごとで区切った広さの地域を表わしている。

雌・雄・成体等の区別は、次の要領で記した。

♀：雌の成体； ♂：雄の成体； Sf：雌の亜成体（次の脱皮で雌の成体となるもの、すなわち雌の最終若虫）； Sm：雄の亜成体； Nf：雌の幼生； Nm：雄の幼生； N：幼生（雌雄の区別の不明確なもの）； N₁：卵のうからでてきたばかりの幼生（第2令幼生、すなわち第1若虫）

ただし、Nf・Sf・SmおよびN₁は、明確に決定できたもの以外は使用していないので、結局は、♀・♂・NmおよびNの記号のみを使ったものと同じことになっている。それ故、むしろ測定値の方が優先されるべきと考える。

種名の前の番号は通し番号とした。命名者名 Bösenberg et Strandは、大幅に省略し、B. S. とのみ記した。データの配列は、背甲幅・体長の小さなものの順とした。

目 録

ウズグモ科

1. オウギグモ *Hyptiotes affinis* B. S., 1906
ニN (1.00 - 2.60), ヘN (1.00 - 2.80)
2. マネキグモ *Miagrammopes orientalis* B. S., 1906
ニN (0.525 - 1.55), ニN (0.550 - 1.80), ホN (0.550 - 1.85),
ニN (0.575 - 2.00), ニN (0.600 - 1.80), ニN (0.693 - 2.77),
ヘNf (1.74 - 9.14), ニ♀ (1.78 - 9.00)
3. カタハリウズグモ *Uloborus sybotides* B. S., 1906
ニ♀ (1.31 - 4.28)
4. ウズグモ *Uloborus varians* B. S., 1906
ヘ♀ (1.29 - 4.03)

チリグモ科

5. チリグモ *Oecobius annulipes* Lucas, 1846
イN (0.48 - 1.12), イN (0.68 - 1.52), イSf (1.08 - 2.80)

ヒメグモ科

6. オオヒメグモ *Achaearanea tepidariorum* (C. L. Koch, 1841)
ニ♀ (1.20 - 3.78), ニ♀ (1.32 - 3.97), ニ♂ (1.58 - 3.84),
ヘNf (1.58 - 5.69), ニ♀ (1.92 - 6.70), ニ♀ (2.02 - 5.00),
ニ♀ (2.30 - 7.65)
7. キベリミジングモ *Dipoena flavomarginata* B. S., 1906

- ニNm (0.625 - 1.75), ニN (0.700 - 1.30), ニN (0.700 - 1.95),
 ニN (0.700 - 2.00), ニ♀ (0.825 - 2.50)
8. カニミジングモ *Dipoena mustelina* (Simon, 1888)
 ニN (0.800 - 2.36), ニ♂ (0.880 - 2.32), ニ♂ (0.900 - 2.36)
9. スネグロオチバヒメグモ *Stemmops nipponicus* Yaginuma, 1969
 ニN (0.662 - 2.08), ニNf (0.756 - 2.46), ニ♀ (0.788 - 2.65),
 ニ♂ (0.819 - 2.33)
10. ヒメグモ *Theridion japonicum* B. S., 1906
 ホ♂ (0.638 - 1.48), ホN (0.640 - 2.00), ホN (0.720 - 2.12),
 ホ♂ (0.760 - 1.92), ニN (0.840 - 2.40), ホ♂ (0.880 - 2.08),
 ヘN (0.880 - 2.48), ホN (0.900 - 2.68), ホN (1.00 - 3.12),
 ニN (1.01 - 3.09), ホN (1.04 - 2.64), ニ♂ (1.06 - 2.56),
 ニN (1.07 - 3.53), ホN (1.07 - 3.65), ホN (1.10 - 3.43),
 ニ♀ (1.12 - 3.16), ホSf (1.13 - 3.97), ヘ♀ (1.17 - 3.15),
 ニ♀ (1.26 - 3.78), ホ♀ (1.29 - 3.84), ニ♀ (1.32 - 3.84),
 ホN (破損個体)
11. ギボシヒメグモ *Theridion rapulum* Yaginuma, 1960
 ホSf (0.660 - 2.12), ホ♀ (0.760 - 3.12)
 サラグモ科
12. アシヨレグモ *Labulla contortipes* (Karsch, 1881)
 ホN (1.39 - 4.41), ホN (1.50 - 6.90)
13. ユノハマサラグモ *Prolinyphia yunohamensis* (B. S., 1906)
 ホN (0.720 - 2.14)
 コサラグモ科
14. クロナンキングモ *Erigonidium graminicola* (Sundevall, 1829)
 ヘ♀ (0.860 - 3.04)
15. トウキョウアカムネグモ *Oedothorax tokyoensis* (Uyemura, 1941)
 ニSf (0.760 - 2.20), ニ♀ (0.800 - 2.28), ニ♀ (0.800 - 2.40),
 ニ♀ (0.848 - 2.64), ニ♀ (0.860 - 2.68), ニ♂ (0.940 - 2.52)
 センショウグモ科
16. センショウグモ *Ero japonica* B. S., 1906

ヘ♀ (1.20 - 4.03), ニ♀ (1.29 - 4.54), ニ♀ (1.35 - 3.30),
ニ♂ (1.40 - 3.30)

コガネグモ科

17. ヌサオニグモ *Araneus ejusmodi* B. S., 1906
ニN (0.550 - 1.30), ニN (0.550 - 1.40), ニN (0.780 - 2.30),
ニN (0.800 - 2.12), ニN (0.800 - 2.44), ホN (0.960 - 2.88),
ハ♂ (1.67 - 4.41)
18. コゲチャオニグモ *Araneus lugubris* (Walckenaer, 1841)
ホN (2.35 - 5.90), ホN (2.40 - 7.50), ホN (3.24 - 9.32),
ホN (3.24 - 9.48)
19. オニグモ *Araneus ventricosus* (L. Koch, 1878)
ハN (3.00 - 6.90), ハN (3.56 - 9.95)
20. カラオニグモ *Araneus viperifer* Schenkel, 1963
ホ♂ (1.32 - 3.15)
21. チュウガタコガネグモ *Argiope aetherea* : B. S., 1906, nec Walckenaer, 1841
ニ♀ (7.1 - 17.0)
22. ナガコガネグモ *Argiope bruennichii* (Scopoli, 1772)
ハN (1.90 - 8.00), ニN (3.00 - 10.0), ハSf (3.79 - 13.7)
23. キジロゴミグモ *Cyclosa laticauda* B. S., 1906
ホN (0.720 - 2.40), ホN (0.960 - 3.84)
24. ゴミグモ *Cyclosa octotuberculata* Karsch, 1879
ホ♀ (3.63 - 13.3), ホ♀ (3.79 - 13.6)
25. オオトリノフンダマシ *Cyrtarachne inaequalis* Thorell, 1895
ホ♂ (1.28 - 2.80), ホ♂ (1.32 - 3.00), ホNf (1.45 - 3.40),
ホNf (2.40 - 6.10), ホNf (2.50 - 6.95), ホNf (2.70 - 7.90),
ホSf (3.00 - 8.20), ホ♀ (3.50 - 8.20), ホ♀ (4.03 - 11.1)
26. スズミグモ *Cyrtophora moluccensis* (Doleschall, 1857)
ニN (3.95 - 11.9), ニ♀ (6.5 - 20.0)
27. ドヨウオニグモ *Neoscona doenitzi* (B. S., 1906)
ハN (0.475 - 1.05), ハN (0.563 - 1.58), ハN (0.600 - 1.73),

- ハN (0.725 - 2.08), ハ♀ (2.25 - 5.70), ハ♀ (2.35 - 7.00),
 ハ♀ (2.60 - 6.85), ハ♀ (2.85 - 7.80), ハ♀ (2.90 - 7.20),
 ハ♀ (3.00 - 10.3)
28. ワキグロサツマノミダマシ *Neoscona mellottei* (Simon, 1895)
 ホN (2.10 - 5.80), ホN (2.10 - 6.50), ホN (2.15 - 5.60),
 ホN (2.15 - 6.50), ホN (2.15 - 7.10)
29. サツマノミダマシ *Neoscona scylloides* (B. S., 1906)
 ニN (2.62 - 8.20), ホ♂ (3.63 - 8.69)
30. ショロウグモ *Nephila clavata* L. Koch, 1878
 ニN (0.945 - 3.72), ホN (1.13 - 4.85), ヘN (1.30 - 5.10),
 ニN (1.45 - 6.10), ニN (1.50 - 5.00), ハN (1.80 - 7.50),
 ホN (2.21 - 13.0), ハN (2.61 - 10.7)
31. ズグロオニグモ *Yaginumia sia* (Strand in B. S., 1906)
 イ♀, イ♂, ロN (1.65 - 5.40)
 アシナガグモ科
32. オオシロカネグモ *Leucauge magnifica* Yaginuma, 1954
 ヘ♀ (2.72 - 9.95), ヘ♀ (3.33 - 11.4)
33. コシロカネグモ *Leucauge subblanda* B. S., 1906
 ヘ♀ (2.37 - 8.69), ヘ♀ (2.37 - 9.64), ヘ♀ (2.40 - 9.64),
 ヘ♀ (2.70 - 11.2)
34. ヤサガタアシナガグモ *Tetragnatha japonica* B. S., 1906
 ハ♀ (3 個体), ハ♂ (12 個体), ハN (9 個体)
35. アシナガグモ *Tetragnatha praedonia* L. Koch, 1878
 ハ♀ (4 個体), ハ♂ (1 個体), ハN (2 個体), ニ♀ (2 個体),
 ニN (4 個体), ホ♀ (1 個体)
36. ウロコアシナガグモ *Tetragnatha squamata* Karsch, 1879
 ニ♂ (1 個体)
 ヒラタグモ科
37. ヒラタグモ *Uroctea compactilis* L. Koch, 1878
 イN (1.07 - 2.96), ニN (1.20 - 2.71), ヘN (2.14 - 4.34),
 ヘN (2.70 - 6.40), ヘ♀ (3.79 - 10.0)

タナグモ科

38. クサグモ *Agelena limbata* Thorell, 1879
ホN (3.79 - 10.4), ホ♂ (3.95 - 13.0), ニ♀ (4.42 - 11.5),
ニ♂ (5.06 - 13.4), ニ♀ (5.37 - 14.7), ニ♀ (5.50 - 15.5)

39. コクサグモ *Agelena opulenta* L. Koch, 1878
ニN (1.90 - 5.60), ニN (2.00 - 5.80), ニN (2.08 - 6.40)

キシダグモ科

40. イオウイロハシリグモ *Dolomedes sulfureus* L. Koch, 1878
ホ♀ (8.5 - 24.0)

コモリグモ科

41. ウヅキコモリグモ *Pardosa astrigera* L. Koch, 1878
ホ♂ (1.80 - 5.30), ニ♀ (2.75 - 6.80)

42. ハリゲコモリグモ *Pardosa laura* Karsch, 1879
ニ♀ (1.89 - 5.23), ホ♀ (2.60 - 6.20)

43. クラークコモリグモ *Pirata clercki* (B. S., 1906)
ニ♀ (1.43 - 3.97), ニN₁ (0.525 - 1.20), ニN₁ (0.525 - 1.20),
ニN₁ (0.550 - 1.20), ニN₁ (0.550 - 1.25), ニN₁ (0.550 - 1.25),
ニN₁ (0.550 - 1.25), ニN₁ (0.550 - 1.30)

44. チピコモリグモ *Pirata procurvus* (B. S., 1906)
ニ♀ (1.32 - 3.47), ニ♀ (1.48 - 3.84)

ササグモ科

45. シマササグモ *Oxyopes macilentus* L. Koch, 1878
ニ♀ (2.56 - 11.2)

46. ササグモ *Oxyopes sertatus* L. Koch, 1878
ハN (2.35 - 8.06), ニ♀ (2.58 - 8.69), ハ♀ (2.69 - 8.85),
ホ♂ (2.70 - 8.00), ニ♂ (2.78 - 7.40), ホ♀ (2.84 - 9.01),
ホ♀ (2.84 - 11.1), ハ♂ (3.00 - 7.58), ハ♂ (3.00 - 7.90),
ニ♀ (3.00 - 9.56), ニ♀ (3.00 - 10.1), ニ♂ (3.03 - 8.14),
ニ♀ (3.13 - 10.6), ハN (破損個体)

カニグモ科

47. コハナグモ *Misupenops japonicus* (B. S., 1906)

- ホ♀ (2.14 - 4.91), ヘ♀ (2.30 - 5.40)
48. ハナグモ *Misumenops tricuspidatus* (Fabricius, 1775)
 ホN (1.39 - 3.24), ニN (1.45 - 3.09), ハN (2.11 - 4.47),
 ロSf (2.25 - 5.00)
49. キハダカニグモ *Oxyptila decorata* Karsch, 1879
 ニN (1.70 - 3.45)
50. ワカバグモ *Oxytate striatipes* L. Koch, 1878
 ニN (1.00 - 2.96), ニN (1.08 - 2.96), ニN (1.32 - 3.76),
 ニN (1.39 - 4.03), ニN (1.39 - 4.16), ニN (1.39 - 4.35),
 ニN (1.62 - 4.70), ニN (1.70 - 4.80), ニN (1.78 - 5.04),
 ニN (1.86 - 5.54), ヘ♀ (3.56 - 11.4)
51. アサヒエビグモ *Philodromus subaureolus* B. S., 1906
 ホ♀ (2.02 - 5.17)
52. アズチグモ *Thomisus labefactus* Karsch, 1881
 ニ♂ (1.38 - 2.72), ニ♂ (1.44 - 3.04), ハNf (3.00 - 6.00),
 ホ♀ (3.10 - 6.60)
53. シャコグモ *Tibellus tenellus* (L. Koch, 1876)
 ニN (1.26 - 4.73)
 ハエトリグモ科
 省略 (松本, 1977 b を参照していただきたい)
 フクログモ科
54. ムナアカフクログモ *Clubiona vigil* Karsch, 1879
 ホ♀ (3.00 - 9.01)
55. オトヒメグモ *Orthobula crucifera* B. S., 1906
 ニ♀ (0.720 - 2.28)
56. ウラシマグモ *Phrurolithus nipponicus* Kishida, 1914
 ニ♀ (0.977 - 3.09)
 アシダカグモ科
57. コアシダカグモ *Heteropoda forcipata* (Karsch, 1881)
 ヘN (3.24 - 8.37)
 シボグモ科

58. シボグモ *Anahita fauna* Karsch, 1879

$\bar{N} (0.880 - 2.20)$, $\bar{N} (0.880 - 2.32)$, $\bar{N} (1.55 - 4.70)$,
 $\bar{N} (1.90 - 5.05)$, $\bar{H} S f (3.32 - 10.3)$, $\bar{N} \bar{F} (3.32 - 8.53)$,
 $\bar{N} \bar{F} (4.08 - 13.6)$

検 討

以上、58種が同定できた種であるが、その他に成体であっても同定できないものがある。継続して調査検討していくつもりである。

この58種の中で、マネグモ・ヒメグモ・ユノハマサラグモ・ヌサオニグモ・ゴミグモ・アシナガグモ・コハナグモおよびハナグモの8種は、Dönitzも湯ノ原で採集している。また、カタハリウズグモ・ヌサオニグモ・チュウガタコガネグモ・ナガコガネグモ・ハナグモおよびシャコグモの6種が、Dönitzによる金刀比羅神社での採集標本中の種と重複しているものである。このようにDönitzの採集結果と重複している種が少ないことは、ハエトリグモ科の結果を含めても69種しか収獲のなかった短期間の調査活動（天候にも恵まれなかったけれども）からは、当然のことといえる。また「Japanische Spinnen」中の記録からは、湯ノ原におけるDönitzの採集期日は3月下旬、5月下旬であり、金刀比羅神社のそれは4月中旬、6月、8月下旬、10月である。これらの月以外にもDönitzは当地を訪れているかもしれないが、これらの確実な記録からいえば、採集時期のずれも重複種の少ない原因の一つといえるであろう。幸い、1978年に高野伸二氏および新海栄一氏と同地を再訪することができたので、その際の成果もいつれ報告したい。

次に、背甲幅の測定結果を見ていくと、本報においてすぐに参考となるのは、成体と亜成体すなわち最終若虫および2令幼生すなわち第一若虫の測定値である。

ヒメグモの場合、最終若虫（♀の）の背甲長は1.13 mmで、雌の成体のそれは1.12, 1.17, 1.26, 1.29 および1.32 mmの個体があった。同じ雌の成体といっても大きさが大分異なることは、クモの令期の推定あるいは決定が単に大きさを測っただけでは困難であることを示唆し、この例では最終若虫個体よりも小さな成体が得られているので、その困難はさらに大きなものとなる。ヒメグモの雌の背甲幅の平均は1.23 mmであった。最終若虫から成体への脱皮した際の生長率を計算すると、平均値の場合は1.09である。最終若虫個体よりも小さい成体は省いて最小個体の測定値を用いると1.04, 最大個体で計算した生長率は1.17である。同様な計算を他の種でも行なってみると、次のようになった。前述のヒメグモでの生長率の計算結果をはじめに示し、他の種の計算値を同様に記す。

ヒメグモ：1.09 (1.04 - 1.17) ,

ギボシヒメグモ：1.15 —— 最終若虫・成体共に1個体しか得られなかった ——

トウキョウアカムネグモ：1.09 (1.05 - 1.13)

オオトリノフンダマシ：1.26 (1.17 - 1.34)

シボグモ：1.11 (1.00 - 1.23) —— 成体2個体中、一方は最終若虫と同じ大きさであった ——

この生長率(平均値)が、その種の全ての令期間で等しいと仮定して計算したところ、第一若虫(2令幼生)から成体になるまでの令期は、ヒメグモ12令、ギボシヒメグモ8令、トウキョウアカムネグモ12令、オオトリノフンダマシ5令、シボグモ11令となった。これら各クモで算出した令期は、実際とは大きく異なっているように思われ、やはり各種各令で具体的な資料が必要といえるであろう。事実、浜村(1977)によれば、キバラコモリグモの各令期個体の背甲幅は、最小個体と最大個体では、令期が進むにつれてその差が大きくなる傾向があり、また最大個体は最小個体の1.07倍から1.21倍となっている。各令期の平均背甲幅によって算出した生長率は1.16から1.27で、平均1.18である。本報の結果の中で第一若虫の得られたクラークコモリグモに、同属種であるこのキバラコモリグモの値を代入してみると、第一若虫から成体までの背甲幅は、0.543 - 0.641 - 0.756 - 0.892 - 1.05 - 1.24 - 1.46 (mm)となり、若虫期は6令ある結果となったが、これが実態と一致しているか否かはわからない。また、特定同一個体の生長を追跡して得られた測定値でもないで、以上の内容はかなり抽象的である。結局のところは、本報の測定値は、今後の資料としかいえないと思う。

以上、特に後半は少々乱暴な論議をしてきたが、報文中の測定値が何かの役に立てば幸いである。

引用文献

- Bösenberg, W. & E. Strand (1906) *Japanische Spinnen. Abh. Senckenb. Naturf. Ges.*, 30 : 93 - 442, pls. 3 - 16.
- 浜村徹三(1971)キバラドクグモの成体に見られる背甲の幅の季節的变化。(東亜蜘蛛学会第2回大会講演要旨), *Atypus*, (55) : 2.
- (1977)キバラコモリグモ *Pirata subpiraticus* (Bösenberg et Strand) の生態II. *Acta arachnol.*, 27 (special number) : 229 - 238.
- 松本誠治(1977a) W. デーニッツのクモ採集地を訪れて。採集と飼育, 39 (11) : 558 - 561
- (1977b) 湯ノ原および金刀比羅神社(佐賀県)のハエトリグモについて。*Atypus*, (69) : 3 - 15.
- (1979) 生物の採集地の記号表示 (Locality Code) について。日本生物地理学会

報, 34 (3) : 21 - 27.

八木沼健夫 (1977) 日本産真正蜘蛛類目録 (1977年改訂). *Acta arachnol.*, 27 (special number) : 367 - 406.

「佐藤真一・クモ ノート」について

～ 大分県のクモ目録資料 No.1 ～

菊 屋 奈良義 (大分・イカリテクノス)

1. まえがき

大分県下のクモについて、記録を残す意味で、前報「大分川下流域のクモ」を報じ、ひきつづいて「佐賀関半島のクモ」を整理中である。

これら大分県のクモに関する報文記載にあたって、参考文献となる貴重な資料があるので紹介しておきたい。

それは、大分市立南大分中学校 佐藤真一教諭の「クモノート」である。

このノートは、1963年7月～1965年8月の間、採集したクモ標本を、八木沼先生によって同定していただいた上、その同定結果通知書を整理・記録したものである。数少ない大分県のクモに関する資料や文献の中で、地元の研究者による信頼度の高い貴重な資料で、将来の「大分県産クモ目録」の編さん資料その1として報告しておく。

この「クモノート」は、1979年4月28日に八木沼先生によって点検していただいたもので、学名や和名は日本産真正蜘蛛目録(1977・八木沼)に統一した。

この報告のために、御繁忙な日常にもかかわらず、心よく「なま資料」の点検や検討に時間を割いて下さった追手門学院大学の八木沼先生と、原ノートの整理報告を応諾下さった大分・佐藤真一氏に心から御礼を申し上げる。

2. 佐藤真一氏のクモ ノートについて

(1) 佐藤真一氏のクモ研究の経過

1963年7月頃から、大分県下の各地区に於ける生物調査に従事され、採集標本を追手門学院大学の八木沼先生から同定していただき、その結果通知書に従って調査リストを提出していただいた。

(2) 佐藤真一氏によるクモに関する報文

・ 1965 由布岳のクモ 大分県由布岳・塚原生物調査報告 大分県生物学会：1～4 (共同報告者・渡辺一高)

(3) クモ ノートの記載内容について

ア. 前記の同定通知書を、大学ノートB5判に、採集地点別に整理したもので

- ・ 大分市上野丘墓地公園 (標本記号 B-.....) (一覧表では上野と略)
- ・ 大分市八幡・柞原八幡宮 (" I-.....) (一覧表では柞原と略)

- ・ 大野郡清川村 (標本記号 K- ……………) (一覧表では清川と略)
- ・ 大分郡由布院町 由布岳 (" Y- ……………) (一覧表では由布と略)
- ・ " " " (" KH- ……………) (")

計 5 地点における採集標本 125 点について記録されている。この中では、

Coelotes unicus YAGINUMA, 1977 サイゴクヤチグモ

C. micado STRAND, 1907 ミカドヤチグモ の採集記録は注目すべき記載である。

イ. このノートは、その後、佐藤真一氏の研究が主として

Hynobius dunni オオイタサンショウウオに関するものに紋られた事を理由として 1965年8月以降記載が途えたまゝである。

ウ. 1979年1月、筆者が参考資料としてゆずりうけ、佐藤真一氏の同意を得て、追手門学院大学の八木沼先生に提出し、学名及び和名について点検を受けたことは前に記述したとおりである。

その結果、種のはっきりしたものに関して抜き書きしたところ、19科39属60種を数えることが出来た。このほかに種が判然としないものや、資料として計上しがたいもの51点(51種ではない)がある。

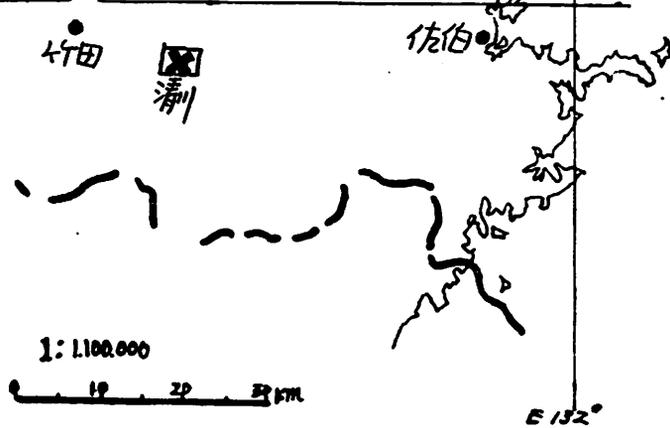
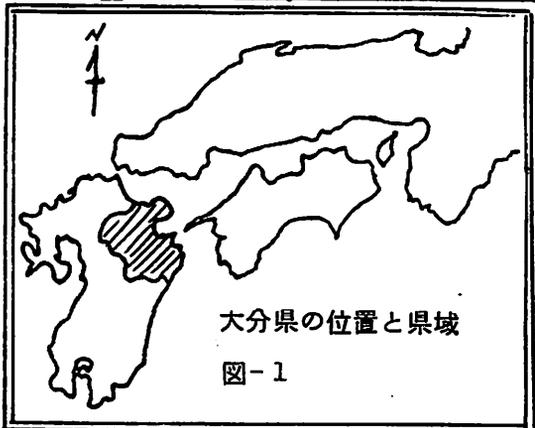
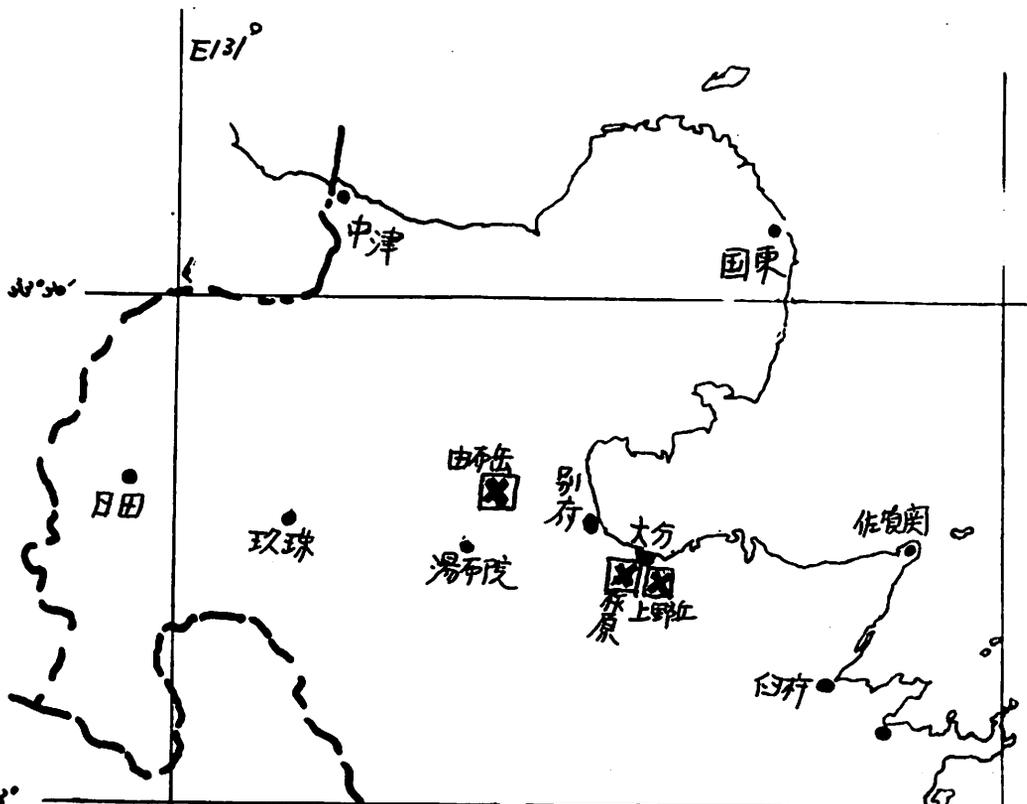
末尾に添付した一覧表が、整理をおえた61種である。表の科・属・種の配列は日本産真正蜘蛛類目録(1977・八木沼)に従った。

エ. 上記の61種を科別にとりまとめてみると、次のとおりである。

Fam.	Gen.	Sp.	Fam.	Gen.	Sp.	Fam.	Gen.	Sp.
<i>Heptathelidae</i>	1	1	<i>Araneidae</i>	7	19	<i>Thomisidae</i>	3	4
<i>Ctenizidae</i>	1	1	<i>Tetragnathidae</i>	2	2	<i>Salticidae</i>	4	4
<i>Atypidae</i>	1	1	<i>Urocteidae</i>	1	1	<i>Clubionidae</i>	1	2
<i>Uloboridae</i>	1	1	<i>Agelenidae</i>	3	7	<i>Heteropodidae</i>	1	1
<i>Segestriidae</i>	1	1	<i>Pisauridae</i>	1	1	<i>Selenopidae</i>	1	1
<i>Theridiidae</i>	4	6	<i>Lycosidae</i>	2	3			
<i>Linyphiidae</i>	3	3	<i>Oxyopidae</i>	1	1	19 科	39 属	60 種

オ. 採集地を略図にあらわすと次図のとおりで、その植生環境を下記に参考までに記述した。

- ・ 上野丘墓地公園(略図では「上野」) アラカシ林 再生萌芽林
- ・ 柞原八幡宮(略図では「柞原」) イチイガシ・イス・スダジイ林・原生林
- ・ 清川村(略図では「清川」) アラカシ林・再生萌芽林
- ・ 由布岳(略図では「由布岳」) アカマツ・及び一部ミヤマキリシマ・原生林



3. 佐藤真一「クモ ノート」記載種一覧

凡例・()は採集地をあらわし、B-1・K-54などは、標本記号番号をあらわす。

(判読例) 63-8・B-1 (63年8月採集・上野丘標本1号)

(1) Heptathelidae キムラグモ科

① *Heptathela kimurai* KISHIDA, 1923 キムラグモ(上野) 63・8・B-1

(2) Ctenizidae トタテグモ科

② *Ummidia fragaria* (DÖNITZ, 1887) キノボリトタテグモ(清川)

64-3・K-54

(3) Atypidae シグモ科

③ *Calommata signatum* KARSCH, 1879 ワスレナグモ(清川) 64-3・K-56

(4) Uloboridae ウズグモ科

④ *Uloborus varians* BÖS. et STR., 1906 ウズグモ(上野・清川)

64-8・B-33

(5) Segestriidae エンماغモ科

⑤ *Ariadna lateralis* (KARSCH, 1881) ミヤグモ(柞原・清川) 63-7・I-35

(6) Theridiidae ヒメグモ科

⑥ *Achaeearanea tepidariorum* (C. KOCH, 1841) オオヒメグモ(由布)

65-8・KH-110

⑦ *Ariamnes cylindrogaster* SIMON, 1888 オナガグモ(由布)

65-8・KH-102

⑧ *Argyrodes fissifrons* O. P. CAMBRIDGE, 1869 チリイソウロウグモ

(由布) 65-8・KH-109

⑨ *A. miniaceus* (DOLESCHALL, 1867) アカイロイソウロウグモ(由布)

65-8・KH-122

⑩ *A. saganus* (DÖN. et STR., 1906) ヤリグモ(由布) 65-8・KH-103

⑪ *Theridion japonicum* BÖS. et STR., 1906 ヒメグモ(由布)

65-8・KH-105

(7) Linyphiidae サラグモ科

⑫ *Linyphia brongersmai* (HELSDINGEN, 1969) チビサラグモ(由布)

64-8・Y-67

⑬ *Neolinyphia nigripectoris* OI, 1960 ムナグロサラグモ(由布) 64-8・Y-74

- ⑭ *Prolinyphia longipedella* (BÖS. et STR., 1906) アシナガサラグモ
(上野・柞原・由布) 63-8・B-32
- (8) Araneidae コガネグモ科
- ⑮ *Araneus ishizawai* KISHIDA, 1928 イシサワオニグモ (由布)
65-8・KH-121
- ⑯ *A. ventricosus* (L. KOCH, 1878) オニグモ (上野・由布) 63-8・B-14
- ⑰ *A. lugubris* (WALCKENAER, 1841) コゲチャオニグモ (由布) 64-8・Y-78
- ⑱ *A. ejusmodi* BÖS. et STR., 1906 ヌサオニグモ (上野・柞原) 63-8・B-6
- ⑲ *A. mitificus* (SIMON, 1886) ビジョオニグモ (上野) 63-8・B-19
- ⑳ *A. pentagrammicus* (KARSCH, 1879) アオオニグモ (柞原) 63-7・I-48
- ㉑ *Neoscona doenitzi* (BÖS. et STR., 1906) ドヨウオニグモ (柞原)
63-7・I-43
- ㉒ *N. mellottei* (SIMON, 1895) ワキグロサツマノミダマシ (上野) 63-8・B-7
- ㉓ *N. scylla* (KARSCH, 1879) ヤマシロオニグモ (由布) 64-8・Y-61
- ㉔ *N. scylloides* (BÖS. et STR., 1906) サツマノミダマシ (柞原) 63-7・I-46
- ㉕ *Zilla sachalinensis* (SAITO, 1934) カラフトオニグモ (由布)
65-8・KH-112
- ㉖ *Argiope amoena* L. KOCH, 1878 コガネグモ (由布) 64-8・Y-84
- ㉗ *A. bruennichii* (SCOPOLI, 1772) ナガコガネグモ (上野・柞原・由布)
63-8・B-13
- ㉘ *A. minuta* KARSCH, 1879 コガタコガネグモ (上野) 63-8・B-22
- ㉙ *Cyclosa argenteoalba* BÖS. et STR., 1906 ギンメッキゴミグモ (由布)
64-8・Y-83
- ㉚ *C. insulana* (COSTA, 1834) シマゴミグモ (由布・清川) 65-8・KH-123
- ㉛ *C. octotuberculata* KARSCH, 1879 ゴミグモ (上野・清川) 63-8・B-25
- ㉜ *Larinia argiopiformis* BÖS. et STR., 1906 コガネグモダマシ (由布)
65-8・KH-117
- ㉝ *Nephila clavata* L. KOCH, 1878 ジョロウグモ (柞原・由布) 63-8・I-42
- (9) Tetragnathidae アシナガグモ科
- ㉞ *Leucauge subgemmea* BÖS. et STR., 1906 キララシロカネグモ (由布)
64-8・Y-73

- ③⑤ *Tetragnatha praedonia* L. KOCH, 1878 アシナガグモ(上野) 63-8・B-12
- (10) Urocteidae ヒラタグモ科
- ③⑥ *Uroctea compactilis* L. KOCH, 1878 ヒラタグモ(上野・由布)
63-8・B-16
- (11) Agelenidae タナグモ科
- ③⑦ *Agelena limbata* THORELL, 1879 クサグモ(上野) 63-8・B-10
- ③⑧ *A. labyrinthi* (CLERCK, 1758) イナヅマクサグモ(由布) 64-8・Y-76
- ③⑨ *A. opulenta* L. KOCH, 1878 コクサグモ(上野) 63-8・B-21
- ④⑩ *Coelotes modestus* SIMON, 1880 ヤマヤチグモ(上野) 63-8・B-31
- ④⑪ *C. micado* STRAND, 1907 ミカドヤチグモ(由布) 64-8・Y-64
- ④⑫ *C. unicus* YAGINUMA, 1977 サイゴクヤチグモ(柞原) 63-7・I-37
- ④⑬ *Tegenaria domestica* (CLERCK, 1758) イエタナグモ(上野) 63-8・B-9
- (12) Pisauridae キシダグモ科
- ④⑭ *Dolomedes sulfureus* L. KOCH, 1878 イオウイロハシリグモ(由布)
64-8・Y-77
- (13) Lycosidae コモリグモ科
- ④⑮ *Lycosa coelestis* (L. KOCH, 1878) ハラクロコモリグモ(由布)
65-8・KH-116
- ④⑯ *L. suzukii* YAGINUMA, 1973 スズキコモリグモ(上野) 63-8・B-15
- ④⑰ *Pardosa astrigera* L. KOCH, 1878 ウヅキコモリグモ(上野) 63-8・B-27
- (14) Oxyopidae ササグモ科
- ④⑱ *Oxyopes sertatus* L. KOCH, 1878 ササグモ(柞原・由布) 63-7・I-38
- (15) Thomisidae カニグモ科
- ④⑲ *Misumenops japonicus* (BÖS. et STR., 1906) コハナグモ(上野)
63-8・B-23
- ④⑳ *Philodromus auricomus* L. KOCH, 1878 キンイロエビグモ(上野)
63-8・B-3
- ④㉑ *P. spinatarsis* SIMON, 1895 キハダエビグモ(上野) 63-8・B-2
- ④㉒ *Xysticus saganus* BÖS. et STR., 1906 オオヤマイロカニグモ(上野)
63-8・B-20
- (16) Salticidae ハエトリグモ科

- ⑤③ *Carrhotus xanthogramma* (LATREILLE, 1819) ネコハエトリ(上野)
63-8・B-5
- ⑤④ *Evarcha crassipes* KARSCH, 1881 アシブトハエトリ(清川) 64-3・K-53
- ⑤⑤ *Marpissa roemori* STRAND, 1906 オオハエトリ(由布) 64-8・Y-72
- ⑤⑥ *Myrmarachne japonica* (KARSCH, 1879) アリゲモ(上野) 63-8・B-34
- (17) Clubionidae フクログモ科
- ⑤⑦ *Clubiona jucunda* (KARSCH, 1879) ヤハズフクログモ(上野) 63-8・B-4
- ⑤⑧ *C. vigil* KARSCH, 1879 ムナアカフクログモ(清川) 64-3・K-52
- (18) Heteropodidae アシダカグモ科
- ⑤⑨ *Heteropoda* sp. アシダカグモの一種(柞原) 63-7・I-47
- (19) Selenopidae アワセグモ科
- ⑥⑩ *Selenops bursarius* KARSCH, 1879 アワセグモ(柞原) 63-7・I-36

計 19 科 39 属 60 種。

(註) 学名中命名者らんは, BÖSENBERG et STRAND を BÖS. et STR. と略した。

九州の洞窟産真正蜘蛛類¹⁾ (III)

入江 照雄 (熊本県立教育センター)

前回(1979)・前々回(1978)の報文については、南九州の洞窟産真正蜘蛛類として熊本、宮崎、鹿児島県の3県のみについて述べてきた。今回からは、九州全体(薩南諸島を除く)の洞窟産蜘蛛についてまとめていきたい。

マシラグモ、ナミハグモなどすでに記載されているクモがいるが、目下整理検討中なので、今回は省略する。

本研究にあたり、終始変らぬご指導を賜っており、また今回本文の校閲をお願いした追手門学院大学の八木沼健夫博士、サラグモ科・コサラグモ科について同定をしていただいた東亜蜘蛛学会会員の斉藤博氏、ならびに種々ご指導ご教示いただいている熊本大学名誉教授の吉倉真博士、国立科学博物館の上野俊一博士に対し謹んで感謝の意を表します。

九州の洞窟(追加)

著者の調査により、前回(1979)のリストに新しく追加される洞窟は2カ所である。なお、今回からは、福岡・長崎・大分の各県の洞窟についてもリストの中に加える。番号は、前回の続きである。

A list of Caves newly surveyed in Kyushu (Addendum)

〔熊本県〕

120. 椿小穴 Tsubaki-koana Cave (下益城郡中央町椿)石灰洞

〔鹿児島県〕

121. 青葉台の穴 Aobadai-no-ana Cave (始良郡始良町帖佐)人工の穴

〔福岡県〕

122. 古処の風穴 Kosho-no-kazaana Cave (嘉穂郡千手町古処山)花崗岩の穴

123. 青龍窟 Seiryukutsu Cave (北九州市小倉区平尾台)石灰洞

124. 牡鹿洞 Ojika-dô Cave (同上)石灰洞

125. 不動洞 Fudô-dô Cave (同上)石灰洞

1) 前回までの「南九州の洞窟産真正蜘蛛類」改題

126. 千仏鍾乳洞 Senbuthu-shonyudô Cave (北九州市小倉区平尾台)石灰洞
 127. 広谷の穴 Hirotani-no-ana Cave (同上)石灰洞
 128. 目白洞 Mejiro-dô Cave (同上)石灰洞
 129. 目白穴 Mejiro-ana Pot (同上)石灰洞
 130. こむそう穴 Komusô-ana Pot (同上)石灰洞
 131. 木ノ戸洞 Kinoto-dô Pot (同上)石灰洞
 132. 岩屋(第一)鍾乳洞 Gôya (Daiichi) shonyudô Cave (田川市大字夏吉字岩屋)石灰洞

〔長崎県〕

133. 清水洞 Shimizu-dô Cave (西彼杵郡^{そのぎ さいしゆい}西海町)砂岩洞

〔大分県〕

134. 狩生洞 Kariu-dô Cave (佐伯市^{かりう}狩生)石灰洞
 135. 猪権現穴 Inoshishi-gongen-ana Cave (大野郡野津町下西神野^{こうの})石灰洞
 136. 熊野権現穴 Kumano-gongen-ana Cave (同上)石灰洞
 137. 小半鍾乳洞 Onagara-shonyudô Cave (南海部郡本匠村^{ほんじよう}小半)石灰洞
 138. 風連鍾乳洞 Fûren-shonyudô Cave (大野郡野津町泊)石灰洞
 139. 白山権現穴 Hakuzan-gongen-ana Cave (同上)石灰洞
 140. コウモリ穴 Kômorî-ana Cave (南海部郡本匠村白谷)石灰洞
 141. 因尾の穴 Inbi-no-ana Cave (南海部郡本匠村^{いんび}因尾)石灰洞
 142. 岩屋の穴 Iwaya-no-ana Cave (大野郡野津町岩屋)石灰洞
 143. 白岩たて穴 Shiraiwa-tate-ana Pot (大野郡野津町^{しらいわ}白岩)石灰洞
 144. こうもり穴 Kômorî-ana Cave (南海部郡宇目町^{かみつおの}上津小野)凝灰岩洞
 145. 川原内の穴 Kawaharauchi-no-ana Cave (白杵市^{こうの}東神野)石灰洞
 146. 火灯洞 Hitoboshi-dô Cave (同上)石灰洞
 147. 太鼓橋の穴 Taikobashi-no-ana Cave (竹田市^{こづばる}神原)凝灰岩洞
 148. 穴森の穴 Anamori-no-ana Cave (同上)凝灰岩洞

九州の洞窟産クモ目録(追加)

次に、新産地のクモと目録に新しく追加されるクモについて述べる。

このリストの分類は、前回・前々回と同様、八木沼氏の「日本産真正蜘蛛類目録」(1977)に従った。種名番号の頭に付した記号も八木沼氏(1976)に準拠した分類である。洞窟名のあとの()内の番号は、洞窟リストの番号である。なお、産地・新産地に採集者名のないものは、すべて著者による採集である。

A list of spiders found in Caves of Kyushu (Addendum)

【新産地のクモ】

◎ 12. *Nesticus brevipes* YAGINUMA コホラヒメグモ

(Nesticidae ホラヒメグモ科)

- 分布：本州・四国・九州
- 既知産地：賁の穴(30), 高沢洞(48), 新地の穴(76), 尾平野洞(107), 権現穴(115), 先不知井坑〔五島-上野・山口〕, 霧島〔洞外-西川〕
- 新産地：穴八幡の穴(2)〔8-X-1978, 西川・入江〕, 市房山〔熊本・水上村, 洞外〕

◎ 17. *Conoculus lyugadinus* KOMATSU ヨリメグモ

(Symphytognathidae ヨリメグモ科)

- 分布：本州・四国・九州・沖縄
- 既知産地：穴ん城の穴(1), 穴八幡の穴(3), 賁の穴(30), 千人隠洞(45)〔入江・高松〕, 黒仁田洞(49), 初神の岩屋(64), 大白尾隊道(89), 仲塔洞(91), 大將軍の穴(102), 野添の穴(103), 祇園の穴(104), 溝ノ口洞(109), 千仏鍾乳洞(126)〔石川〕, 岩屋(第一)鍾乳洞(132), 清水洞(133)〔石川〕〔24-V-1980, 入江〕, こうもり穴(144), 太鼓橋の穴(147), 徳浦の穴〔大分-石川〕
- 新産地：青葉台の穴(121), 穴森の穴(148), 人吉〔洞外, 26-IV-1980〕

◎ 21. *Cicurina japonica* (SIMON) コタナグモ

(Agelenidae タナグモ科)

- 分布：本州・四国・九州・(韓国)
- 既知産地：日光洞(27), 高沢洞(48), 新地の穴(76), 乳ノ窟(86), 大將軍の穴(102), 野添の穴(103), 溝ノ口洞(109), くまそ穴(113), 青龍窟(123), 岩屋の穴(142)

英彦山〔洞外，大熊〕

- 新産地：雁俣山〔洞外，22-K-1974，熊本〕

【目録に新しく追加されるクモ】

- 33. *Ostearius melanopygus* (O. P. CAMBRIDGE) スソグロサラゲモ
(Linyphiidae サラゲモ科)
 - 体長♂ 2.3 mm, ♀ 2.5 - 3.0 mm。雄の触肢脛節には突起がある。
 - 洞窟からの採集記録および九州内の産地は不明。熊本県初記録種。
 - 海浜に近いリターで採集される場合が多い。
 - 分布：本州・四国・九州・沖縄
 - 産地：新地の穴(76)〔14-V-1972(斉藤氏同定)〕
- ◎ 34. *Nesticus higoensis* YAGINUMA ヒゴホラヒメグモ(長肢系)
(Nesticidae ホラヒメグモ科)
 - 体長♂ 4.0 - 4.8 mm, ♀ 4.5 - 5.0 mm。
 - Nesticus* は、体長と歩脚比から長肢系と短肢系に分けられる。
 - 網は、ヒメグモ式の不規則なものをつくる。
 - 長肢系雄の触肢の小杯葉は、杯葉基部から分岐して異常な発達変化を見せる。
 - 長肢系雌の外雌器は、中央がかたいキチン板でおおわれる。このキチン板が後方に突き出てキチンスケープを形成している。
 - 長肢系の小杯葉、キチンスケープとも、種類ごとによりの変異がみられる。
 - Nesticus* については、八木沼氏により全国各地の材料で、いろいろな角度から検討され、次々に報文が発表されている。
 - 現在までに、37種10亜種(八木沼, 1979)が記載されている。
 - ヒゴホラヒメグモは、他の地域の*Nesticus* よりも、小杯葉の変異がいちぢるしく、同一洞窟内でも微小変異がみられる。この微小変異については、目下著者が研究中である。
 - ヒゴホラヒメグモの洞外での生息を、市房山(熊本)の標高 800 m 地点で確認している。
 - 新分布：九州
 - 産地：須ノ子洞(14), 風神洞(17), 大金峰洞(34), 二合の穴(35), 西の岩洞(36), 水無

谷の穴(40), 黒仁田洞(49), 九折瀬洞(55), 九折瀬小穴(56)〔模式産地〕, 吐合洞(59), 古処の風穴(122), 育龍窟(123)〔3-N-1955, 上野〕, 千仏鍾乳洞(126)〔3-N-1955, 上野〕, こむそう穴(130), 市房山〔洞外, 3-X-1977, 水上村〕

他に, 構口の穴(4), 構口のY字穴(5), 構口の二つ穴(6), 笠石の穴(9), 笠石の小穴(10), 笠石の通り穴(11), こうもり穴(12), セツ迫の穴(15), 坂谷の風穴(21), 牡鹿洞(124), 不動洞(125), 広谷の穴(127), 目白洞(128), 目白穴(129), 木ノ戸洞(131)で幼生, 雌を採っているが, 種未決定。しかし, 外雌器や分布からみて, *N. higoensis* の可能性は充分ある。(Fig. 1)

◎ 35. *Nesticus furenensis* YAGINUMA フウレンホラヒメグモ(長肢系)

(Nesticidae ホラヒメグモ科)

- 体長♂ 4.0 - 4.5 mm, ♀ 4.5 - 5.0 mm。
- 新分布:九州
- 産地:風連鍾乳洞(138)〔30-V-1964, 福沢良太・28-VII-1971, 平化満〕, コウモリ穴(140), 岩屋の穴(142)

上記3カ所に近い狩生洞(134), 猪樞現穴(135), 小半鍾乳洞(137), 川原内の穴(145)でも記録しているが, 雄が採れていなく種未決定。

◎ 36. *Nesticus bungonus* YAGINUMA ブンゴホラヒメグモ(長肢系)

(Nesticidae ホラヒメグモ科)

- 新分布:九州
- 産地:九折洞〔大分, 廃坑 17-X-1968, 田中真悟〕

◎ 37. *Nesticus iriei* YAGINUMA ソボホラヒメグモ(長肢系)

(Nesticidae ホラヒメグモ科)

- 体長♂ 5.0 - 5.5 mm, ♀ 5.5 - 6.0 mm。
- 新分布:九州
- 産地:穴森の穴(148)

◎ 38. *Nesticus takachiho* YAGINUMA タカチホホラヒメグモ(長肢系)
(Nesticidae ホラヒメグモ科)

◦体長♂4.5-5.0mm, ♀5.0-5.5mm。

◦新分布:九州

◦産地:柘植の滝鍾乳洞(80), 乳ノ窟(86), 七折鍾乳洞(87), 戸川洞(88)

他に, 上記の産地以外の太子ヶ岩屋(84), 白滝洞(85), 童子滝の穴(90)でも記録しているが, 雄が採れていなく種未決定。外雌器や分布からみて, *N. takachiho* の可能性はある。

◎ 39. *Cicurina maculifera* YAGINUMA ファイリコタナグモ
(Agelenidae タナグモ科)

◦体長♂4.0-6.0mm, ♀4.0-7.0mm。

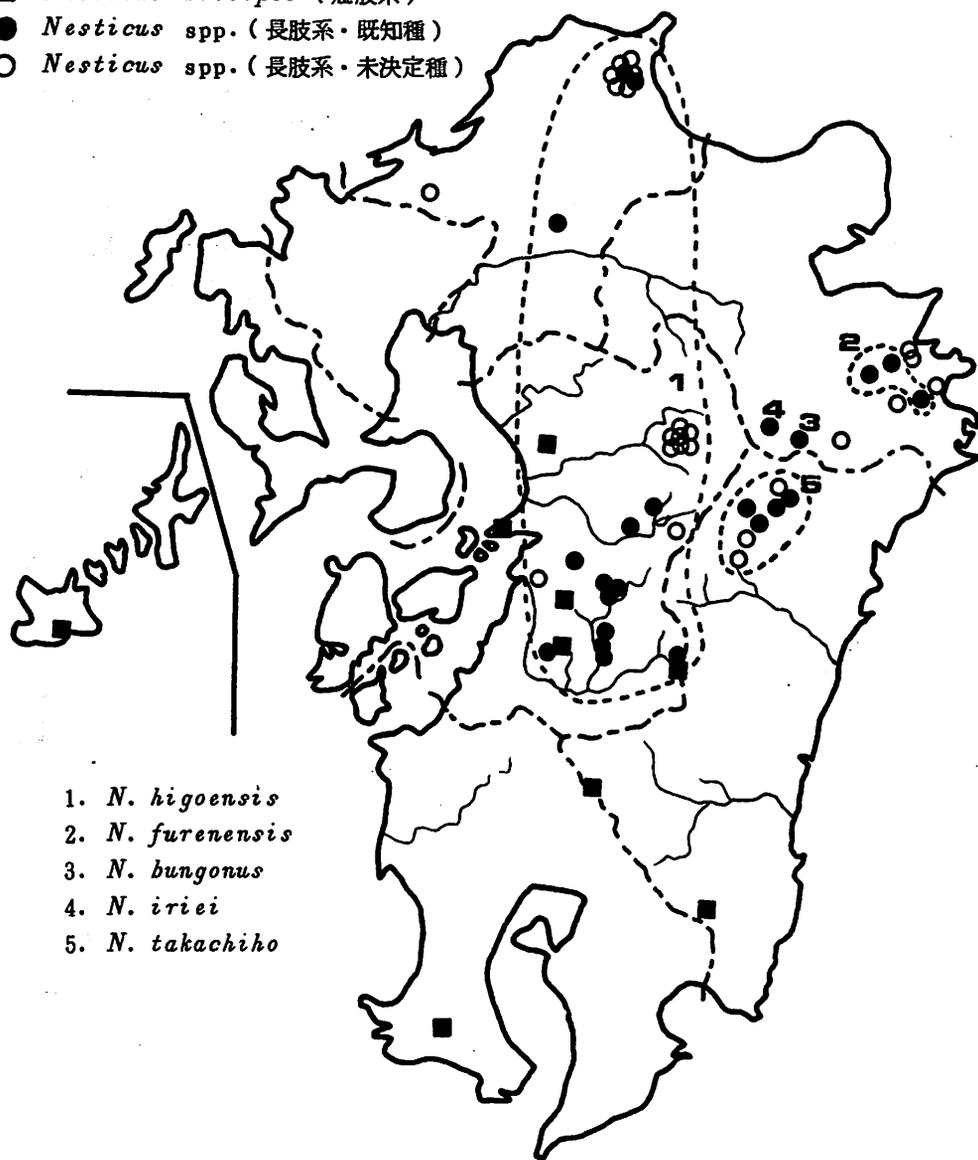
◦九州内の洞窟やリター中に広く分布する *C. japonica* コタナグモより大型で, 体長と脚が長い。腹背に対斑があるのが特徴。

◦今後の精査により, 九州内に広く分布するものと思われる。

◦新分布:九州

◦産地:片野洞(110) [5-Ⅹ-1974, 上野・入江]

- *Nesticus brevipes* (短肢系)
- *Nesticus* spp. (長肢系・既知種)
- *Nesticus* spp. (長肢系・未決定種)



1. *N. higoensis*
2. *N. furenensis*
3. *N. bungonus*
4. *N. iriei*
5. *N. takachiho*

Fig. 1 九州におけるホラヒメグモ属の分布

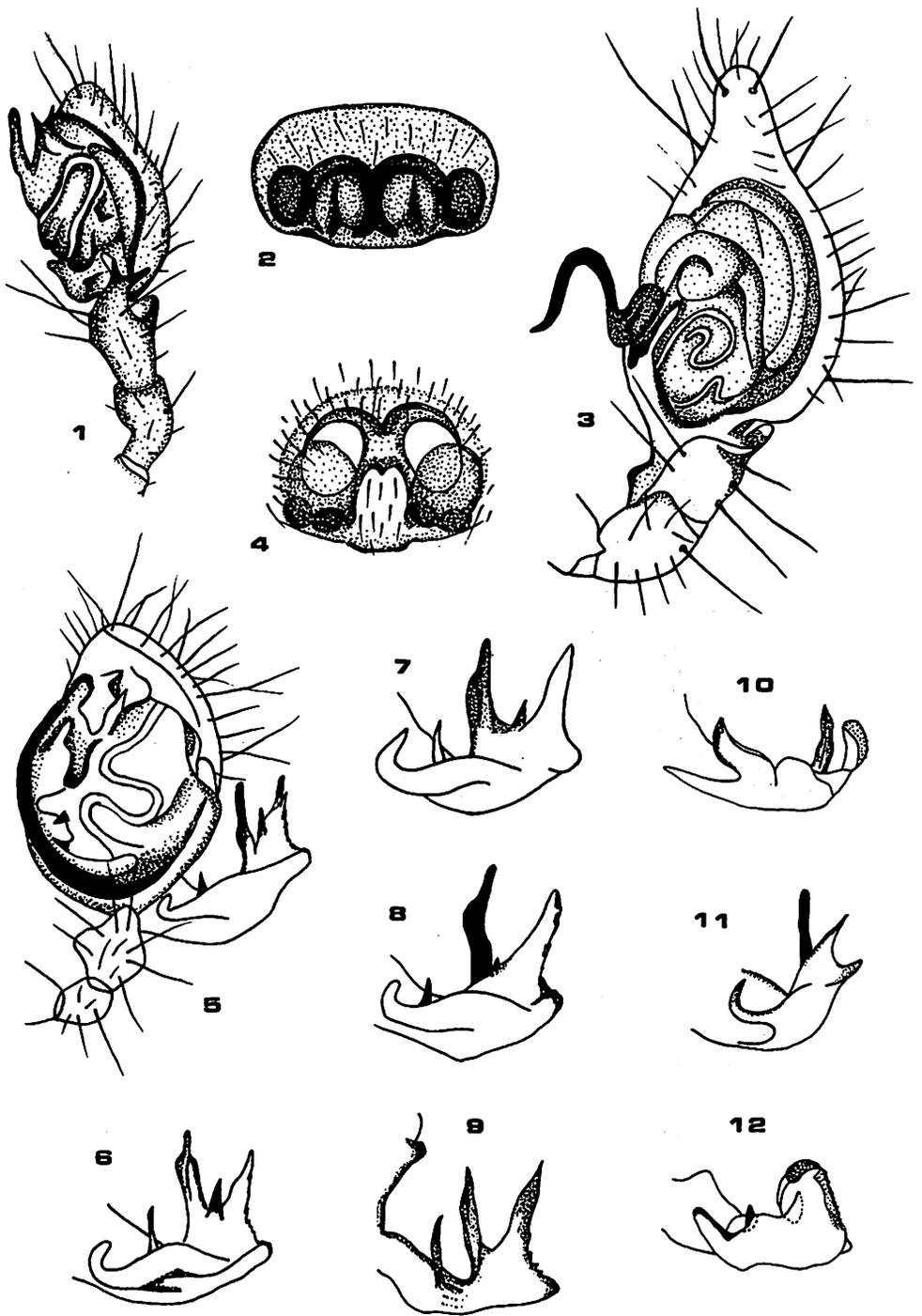


Fig. 2.

1. *Ostearius melanopygus* (O. P. CAMBRIDGE) (♂) ; palp—2. Same species (♀) ; epigynum—3. *Cicurina maculifera* YAGINUMA (♂) ; palp—4. Same species (♀) ; epigynum—5. *Nesticus higoensis* YAGINUMA (♂) ; palp—6. Same species (♂) ; paracymbium of palp (Pcy) [Tsururase-koana Cave]—7. Same species (♂) ; Pcy [Sunoko-dô Cave]—8. Same species (♂) ; Pcy [Mt. Ichifusa]—9. Same Species (♂) ; Pcy [Komusô-ana Pot]—10. *N. furenensis* YAGINUMA (♂) ; Pcy [Kômorî-ana Cave]—11. *N. iriei* YAGINUMA (♂) ; Pcy [Anamori-no-ana Cave]—12. *N. takachiho* YAGINUMA (♂) ; Pcy [Togawa-dô Cave]

ま と め

1. 現在までに、著者が確認し調査した洞窟は、福岡県11カ所、長崎県1カ所、大分県15カ所、熊本県83カ所、宮崎県29カ所、鹿児島県9カ所の合計148カ所である。
2. 今回、目録に追加されたクモは7種となる。前回までに報じたクモを加えると39種となる。
3. 九州産の長肢系 *Nesticus* は、八木沼氏の長年の研究により、*N. higoensis*, *N. furenensis*, *N. bungonus*, *N. iriei*, *N. takachiho* の5種が明らかになった。

参 考 文 献

前回(1979)、前々回(1978)に掲げた文献は省略する。

1. 入江照雄, 1979. 南九州の洞窟産真正蜘蛛類(Ⅱ). 九州クモの会誌, 1(2): 19-26.
2. ———, 1979. 九州の洞窟産真正蜘蛛類(Ⅳ) - 講演要旨 -. ATYPUS, (75): 36-37.
3. 中村 久・庫本 正, 1973. アキヨシヒメグモの生活様式について. 秋吉台科学博物館報告, (9): 29-37.
4. 大井良次, 1962. サラグモ科とコサラグモ科. ATYPUS, (26-27): 49-73.
5. 曾塚 孝, 1971. 平尾台の自然. 教育・科学研究集録, pp. 79-152.
6. 八木沼健夫, 1962. 秋吉台洞穴のアキヨシヒメグモ. 山口県の自然, (7): 1-8.
7. ———, 1969. ホラヒメグモ属(*Nesticus*)の分類学上の諸問題. The Bison, (61): 1-12.
8. ———, 1970. *Nesticus* の変異と分布について. ATYPUS, (53): 17-20.
9. ———, 1971. 洞窟のクモの変異について. ATYPUS, (55): 4.
10. ———, 1976. 高知県のホラヒメグモ類. 洞窟学雑誌, 1: 16-27.
11. YAGINUMA, T., 1977. Some problems in Cave spiders of Japan. Fac. Let. Rev. Otemon Gakuin Univ., (11): 305-316.
12. 八木沼健夫, 1978. 四国の洞窟産ホラヒメグモ類. 追大文紀, (12): 151-160.
13. YAGINUMA, T., 1979. Spiders from Tuff and Wave-cut Caves of Southern Kyushu, Japan (Ⅱ). Jou. Speleol. Soc. Japan, 4: 23-26.

14. YAGINUMA, T., 1979. A Study of the Japanese Species of Nes-
ticid Spiders. Fac. Let. Rev. Otemon Gaku-
in Univ., (13) : 255 - 287.

編 集 後 記

- Japanese Spinne (Bosenberg et Strand 1906) のゆかりの地・佐賀県のクモが再び、この会誌に登場しました。貴重な採集記録の原稿をいただいた松本会員には厚くお礼申し上げます。
- あと1, 2篇を期待して、6月末の〆切を少々延ばして待ちましたが、3篇に留まりました。№4への投稿、今からご準備ください。
- 3篇とも地方のサークル誌に相応しい内容となりました。会員諸氏のご協力に感謝します。

(入江)

HEPTATHELA VOL. 1, №3

1980. 8. 10 発行

発行者 吉 倉 真

発行所 九州クモの会

〒812 福岡市東区箱崎

九州大学農学部昆虫学教室内

印刷所 平山印刷出版 (0963) 82-3630

熊本市下南部町 614-5